

## 予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算      支出科目 款：衛生費      項：医務費      目：医務費

**事業名 訪問看護事業所等専門・認定看護師派遣**

**研修事業費（地域医療介護総合確保基金）**

（この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください）

健康福祉部 医療福祉連携推進課 看護係 電話番号：058-272-1111（内 2537）

E-mail：[c11230@pref.gifu.lg.jp](mailto:c11230@pref.gifu.lg.jp)

**1 事業費** **3,372 千円（前年度予算額：3,372 千円）**

**<財源内訳>**

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	3,372	0	0	0	0	0	3,372	0	0
要求額	3,372	0	0	0	0	0	3,372	0	0
決定額	3,372	0	0	0	0	0	3,372	0	0

**2 要求内容**

**（1）要求の趣旨（現状と課題）**

- ・県内の看護職員総数は年々増加傾向にあるものの、訪問看護事業所や介護保険分野の施設等における就業割合は低い。
- ・また、75歳以上の高齢者の増加に伴い、地域包括ケアシステム体制の構築が求められる状況の下、訪問看護事業所、介護保険分野の施設、中小病院等における看護職員の需要が高まっている。
- ・研修の機会が得にくい訪問看護事業所、介護保険分野の施設、中小規模の医療機関等に勤務する看護職員に対し、専門的な看護の知識や技術、実践的な演習などの研修を受けられる体制を作る必要がある。
- ・平成22年度から実施してきた「認定看護師育成支援事業費補助金」で養成した認定看護師を、今後は必要とする医療機関等に派遣し、看護師の資質向上を図り、地域医療提供体制をより一層強化する。

**（2）事業内容**

- 研修の機会が得にくい訪問看護事業所、介護保険分野の施設、中小規模の医療機関等に勤務する看護職員を対象に、専門看護師・認定看護師が出向いて、施設の個々の課題に即した実践的な研修会を実施する。

- ・開催時期 令和3年4月～令和4年3月
- ・対象 訪問看護事業所、介護保険分野の施設、中小規模（300床未満の病院及び診療所）等に勤務する看護師等職員。
- ・実施回数 県内で40施設（1施設につき3回）
- ・実施方法 関係団体等へ委託  
○各施設における研修が終了した後、講師による実施報告会（全体会議）会議を実施。

### （3）県負担・補助率の考え方

看護職員の確保、育成を目的とした事業であるため、県の負担は妥当

### （4）類似事業の有無

無

## 3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
委託料	3,372	講師（専門・認定看護師）の報償費・旅費等
合計	3,372	

## 決定額の考え方

### 4 参考事項

#### （1）各種計画での位置づけ

- ・長期構想中間見直し  
Ⅱ－2 地域医療体制と医師・看護職員を確保する  
・地域医療連携体制の構築
- ・保健医療計画  
4－4 保健医療従事者の確保・養成  
・看護職員（保健師・助産師・看護師・准看護師）

#### （2）国・他県の状況

他県においても、訪問看護事業所、介護保険分野の施設、中小規模の医療機関等に対し、専門・認定看護師を派遣し講習会を実施（16道府県）

#### （3）後年度の財政負担

研修の需要について把握し、必要な検討を実施。

#### （4）事業主体及びその妥当性

看護職員の資質向上は、長期構想でも位置づけた県の役割であり、主催者として講習会を実施

# 事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

## 1 事業の目標と成果

### （事業目標）

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか  
団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、働く場所に関わらず、県内の看護職員が研修受講の機会を受けやすくし、看護職員の資質向上を図りたい。

### （目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値 <small>(前々年度末時点)</small>	目標	達成率
訪問看護事業所等での研修会開催施設数	0回 (H29)	回 (H )	40 施設 (R1)	30 施設 (R2)	40 施設 (R3)	%

### ○指標を設定することができない場合の理由

### （前年度の取組）

- ・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）  
令和2年度は、30施設（病院10、特別養護老人ホーム10、老人保健施設2、訪問看護事業所8）に対し、摂食・嚥下障害看護認定看護師や皮膚・排泄ケア認定看護師等、施設等が希望する分野に応じて専門・認定看護師が出向き、課題に即した実践的な研修を行った。

### （前年度の成果）

- ・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果  
事業開始より定数以上の応募があり、派遣を希望する声が多くあった。令和2年度は、30施設から派遣研修の応募があった。新型コロナウイルス感染症の影響を受けて受講施設を縮小したが、今後もニーズは高いと考えられる。

## 2 事業の評価と課題

### (事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い      △：必要性が低い</li> </ul>	
(評価) ○	今後医療的ケアが必要な高齢者が中小規模病院を受診したり、疾病の経過が急性期から慢性期へ移行した際には、社会福祉施設へ入所したり、自宅で療養生活を続ける高齢者が増加するため、専門看護師、認定看護師が病院等へ出向き、課題に即した実践的な研修を行うことで、施設等で提供される看護の質が向上。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない</li> </ul>	
(評価) ○	施設等が特に必要とする分野に応じ、専門性の高い看護師による計画的かつ実践的な研修を実施することで、施設全体の看護の質向上に役立っているとの評価を得ている。様々な施設からの実施の要望が強い。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている      △：向上の余地がある</li> </ul>	
(評価) ○	派遣研修会を企画・運営するのに必要な専門的知識をもち、看護の現場に精通した職員が在籍し、適正かつ効果的に実施してきたノウハウと実績を持つ者に委託することで、事業の効率化は図られている。

### (今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業が直面する課題や改善が必要な事項</li> </ul> <p>事業への参加促進のための周知や講師が持つ専門・認定の各分野と、訪問看護事業所等が求める受講内容のマッチング。</p>
---

### (次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか</li> </ul> <p>令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて受講施設を縮小した。過去の実績では研修の機会が得にくい施設から募集数を上回る派遣研修の希望があったことから、社会情勢や研修ニーズを把握しつつ、研修の機会が得にくい看護職員の資質向上に取り組む。</p>
--

### (他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	【○○課】
組み合わせて実施する理由や期待する効果 など	

